



私論／試論

NAFTA 再交渉は短期決戦か

メキシコ・日本アミーゴ会
幹事（編集人） 河嶋正之

NAFTA（北米自由貿易協定）の墨米加三カ国の再交渉は、早期決着を期待できそうな展開だ。トランプ政権（米国通商代表部：USTR）は去る5月18日、2015年貿易優先事項説明責任法（2015年TPA法）の手続きにより、米国議会宛てに墨加と「NAFTAの再交渉を行う」との意向を簡潔に通知した。USTRは今後、議会通知後90日を経た8月16日以降であれば再交渉を開始できる。ただし、USTRは同時平行的に議会協議や利害関係者の意見聴取を行っており、最速で8月16日に再交渉を始める場合、遅くとも交渉開始30日前の7月16日までに、各交渉分野について包括的で詳細な交渉目的（交渉項目）を一般公開する義務がある。墨米の大統領は7月8日、G20会合で会談し、NAFTA再交渉を早ければ8月16日に開始し、年末までの基本合意を目指すことで合意した。本稿では再交渉に向けた両国の取り組み姿勢を概観する。

米国：TPPをベースに早期決着？

墨米両国政府は、2018年7月のメキシコ大統領選挙・議会選挙と11月の米国議会中間選挙、さらには2019年のカナダ総選挙を念頭に、NAFTA見直し交渉の早期決着を目指している。NAFTA再交渉が墨米両国での「政治の季節」に向かって政争の具とならないためには、遅くとも2018年の年初には交渉合意が実現し、4月頃までに各国議会が批准することが必要だろう。また、トランプ政権が今般再交渉の根拠法とする2015年TPA法は2018年6月30日に失効する時限立法であり、改定内容の迅速な議会審議のためにも早期の再交渉合意が不可欠となる。

ライトハイザーUSTR代表は折に触れて、NAFTA再交渉について「(2017年の)年内に交渉を終了させたい」とか「数カ月で妥結したい」旨を発言している。しかし、自由貿易協定(FTA)の締結交渉は例えば日墨EPAで2年、環太平洋パートナーシップ(TPP)で4年の年月を要しており、もし米国が年内あるいは数カ月という“短期間”での再交渉妥結を目指すのであれば、それは基本合意まで1年2カ月の交渉期間を費やしたNAFTAの基本構造を根底から覆すような、あるいは抜本的な改定交渉を実現する可能性は極めて低いことを示唆すると言わざるを得ない。

USTRの議会宛て5月18日付け通知書は、再交渉の目的について「大統領がNAFTAの現代化に関して、カナダおよびメキシコと交渉を開始する意図があることを議会に通知する」と、NAFTAの「近代化」(Modernization)の必要性を指摘している。すなわち25年前に成立したNAFTA(1994年1月発効)の合意内容の多くは既に時代遅れとなっているとし、例えばデジタル貿易、知的財産、規制慣行、国有企業、サービス、税関手続き、衛生・植物検疫、労働、環境、中小企業支援などの分野に対処するには、NAFTAに新しい規律を付加して現代化しなければならないとしている(米国官報、2017年5月23日付け)。

これらの交渉分野はTPPの交渉分野と重なる。すなわち、ライトハイザーUSTR代表は3月14日、就任承認に向けた上院公聴会で、TPPでのメキシコやカナダとの合意事項を基本にNAFTA再交渉を進めていくべきとの見解を示している。ウィルバー・ロス商務長官も同様の見解を示しており、米国政府はTPPの合意内容を議論のたたき台として再交渉に臨むとみられる。

他方、USTRの5月の議会宛て通知書は、先に3月22日に議員間で回覧された8ページの草案に比して2ページと簡略化されており、トランプ大統領が選挙期間中から掲げてきた、関税引き上げなど保護主義的な政策は明記されていない。また、3月の草案に盛り込まれていた原産地規則の変更やセーフガード措置の

= 目次 =

- | | | |
|--|---------------|------|
| 1.私論 / 試論：「NAFTA 再交渉は短期決戦か」 | アミーゴ会 幹事 河嶋正之 | ...1 |
| 2.メキシコ政治：「2018年大統領選挙：ポピュリスト政権の誕生も」 | アミーゴ会 幹事 河嶋正之 | ...4 |
| 3.お知らせ：「メキシコ歴史文化講演会」「Fiesta Mexicana 2017@お台場」…3 / 「ゴルフ大会」「私の本棚」「あとがき」…5 | | |

導入、税務上の平等な扱いの確保（税制における競争条件の平準化）、政府調達、投資などに関する記述も消えている。一方で、相手国の合意事項の「効果的な実施」（effective implementation）と「積極的な履行」（aggressive enforcement）を達成する、との記載はあるが具体的な内容の記述はない（JETRO New American Policy, No.7842、2017年5月19日付け）。しかしながら、7月16日までの議会や利害関係者との協議過程で、NAFTA 再交渉の早期決着を目指してどのように調整するのか、離脱した TPP の規律や市場アクセスをどの程度まで反映させるのか、あるいは TPP 以上の TPP プラスを目指すのか否かなどについて、関係者の発言を引き続き注視していく必要がある。

メキシコ・カナダ両国は、TPP 交渉で合意済みの「近代化」条項については基本的に受け入れるであろう。しかし、米国にはトランプ大統領が離脱表明した TPP を踏襲する水準での「近代化」では不十分との意見もあり、とくに民主党議員の中には TPP の合意内容を上回る厳しい国際基準での改定を求める声もある。例えば労働・環境規制分野ではメキシコでの法規の執行が不十分であり、これが生産コスト面での優位性をメキシコにもたらしているとの見解もある。トランプ政権がかかる主張を背景に、TPP の合意内容を超越する交渉を強要すれば NAFTA 再交渉が難航することになる。

他方で5月の通知書により、「NAFTA 加盟三カ国の枠組みを維持しながら再交渉する」というトランプ政権の基本方針が明らかとなったといえる。同時に墨加両国政府は「三国間協定」を維持する方向で一致しており、加えて墨米加三カ国の全国商業会議所は6月7日に「北米経済連合」を組織し、NAFTA 再交渉の過程で「既存の経済関係を損なわない（do no harm）」ように求める見解を表明した。また、三カ国の農相は6月20日、「われわれの農業に関する違いは比較的少ない」とする農相会談共同声明を発表し、NAFTA 再交渉で農業分野は主要な争点にならないとの認識を示した。

とはいえ、米国内の意見調整に手間取り再交渉がトランプ政権の思惑通りに進まない場合には、米国第一を掲げての米加、米墨、加墨の2国間交渉に移行する可能性は依然として残されている。したがって、再交渉の合意は、年内決着どころか2018年中の合意も困難で、2019年以降となるとの見方も出されている。

メキシコ：盤石の交渉体制を構築

メキシコ経済省のバイカー通商交渉担当次官はメディアの取材に、NAFTA の再交渉開始決定について「IT（情報技術）の進展など環境変化に合わせて近代化する機会にする」と述べて電子商取引や知的財産について協定を拡充する意向を示した。一方で「関税や輸出枠については交渉しない」と語っている（日本経済新聞、7月3日付け）。かねてより同次官は、NAFTA 再交渉に際して①新しい関税・貿易

取引制限措置（数量規制）は交渉しないこと、②TPP 協定交渉で合意された高い水準の内容を確保すること、③交渉は墨米加の三国間で行うこと、との「3つの交渉目的」を明言している。また、メキシコ日本商工会議所（カマラ）との面談（4月26日）で同次官ら経済省幹部は、メキシコ政府は①関税引き上げの交渉には応じない、②メキシコに不利益となるような原産地規則変更の交渉にも応じない、③貿易の多角化を進めると語り、併せて④カマラと経済省との定期会議の実施を承諾したと、カマラ会員に報告されている。

メキシコ政府は「3つの交渉目的」（貿易自由化の維持・TPP 合意内容の確保・三国間交渉）を掲げて、米国の一方的な輸入制限措置に対しては対抗措置をとる構えを明確にしている。こうした厳しい交渉を支える官民の体制づくりもほぼ完了しており、いまや NAFTA 再交渉開始のゴングを待つだけとなっている。

ペニャ・ニエト大統領は2月1日、トランプ大統領が求める NAFTA 再交渉について国内の関係者から90日間をかけて広く意見を求め、その後に交渉を開始すると表明した。大統領の呼びかけに応じて企業家調整評議会（CCE）は NAFTA 再交渉に向けたメキシコ民間部門の意見集約を目的に、各産業分野および個別テーマに関する専門家からなる「国際交渉戦略諮問評議会」（CCENI: Consejo Consultivo Estratégico de Negociaciones Internacionales）を組織した。2月の初会合では①政府と民間部門が連携して NAFTA の再交渉に当たること、②EU、アジア、ラテンアメリカとの通商交渉にも取り組むこと、③自由貿易を堅持し、投資家への信頼を確保すること、さらに④経済統合の強化を図ることが重要であるとの認識で一致した（CCE プレスリリース、2月3日付け）。CCENIにはCCE加盟の12団体が評議会メンバーとして参画し、後述の「サイドルーム」にも参加している。

また、NAFTA 再交渉の情報共有を目的に「企業家フォローアップ委員会」（Comité de Seguimiento Empresarial）が CCE の主導下で発足。外資系企業も含めた企業経営幹部が参加している。

NAFTA 再交渉はメキシコ経済省が一元的窓口となって担当する。また、政府交渉団の脇にはメキシコの民間団体・民間企業が組織する「サイドルーム」があり、経済省が通商交渉をする際には常に民間代表団も自費で赴き、交渉が行われている隣の部屋（サイドルーム）で待機するという、メキシコ独自の官民共同の通商交渉体制が確立している。すなわち、CCENI が民間団体の代表が参加するサイドルームの調整をし、民間の意向を政府交渉団に伝える。また、交渉の個々の局面で経済省から報告を受け、対処判断を共同で行う。

さらに NAFTA 再交渉に向けて「インテリジェンス・ルーム」（Cuarto de Inteligencia）が組織されている。その任務は再交渉に向けた戦略の策定およびメキシコの強み弱みの分析を行い、メキシコ政府

へ伝えると言う。インテリジェンス・ルームは非常にクローズドな組織で、調整役は TPP 交渉時のサイドルーム調整役を担ったモイセス・カラッチ氏である。その他のメンバーには、ブランコ元商工大臣、デラカジェ元通商担当次官など国際通商交渉のプロが参加している。インテリジェンス・ルームの機能は再交渉開始と同時に停止するという。

NAFTA 再交渉の行方は、ビジネス環境の変化に応じた通商協定の「近代化」の模範にもなれば、貿易自由化を逆戻りさせる悪しき前例にもなり得る。また、米国の主張する保護主義の今後の有り様を示唆する指標ともなり得る。まだまだ要注意状態が続く。注視したい。 <了>

お知らせ

2017年メキシコ歴史文化講演会

「メキシコ日系移民の歴史とその活躍」

メキシコ・日本アミーゴ会は、日墨の友好親善の促進とメキシコ理解を深める目的で、毎年「メキシコ歴史文化講演会」を開催しています。2017年度はメキシコ日本移民 120 周年記念行事の一つとして、「メキシコ日系移民の歴史とその活躍」を主テーマに4回シリーズの講演会を下記の通り開催します。

開催日が確定次第、アミーゴ会メルマガなどで改めてお知らせします。皆さまお誘い合わせのうえお出かけください。

全4回講演会の概要

第1回 9月 (or8月) :

「日本人メキシコ移住の史的背景と変遷」

“Trasfondo Sociohistórico y Transición de la Inmigración del Japón a México”

講師：神田外国語大学教授 柳沼孝一郎さん

第2回 10月 :

「チアパスに入植した榎本移民と榎本武揚について」

“Inmigrantes Enomoto resididos en Chiapas y Visconde Buyo Enomoto”

講師：ノンフィクション作家 山本厚子さん

第3回 11月 :

「戦後メキシコ日系社会の動向と変容

—日本のパートナーとしてのメキシコ—

“Movimientos y Transición Socioeconómica en la Posguerra de la Comunidad de Inmigrantes Japoneses~México, Amigo del Japón~”

講師：南山大学外国語学部准教授 浅香幸枝さん

第4回 12月 :

「私がメキシコから学んだこと」

“Los Tesoros Mios que Yo he aprendido en México”

講師：バイオリニスト 黒沼ゆり子さん

開催概要(各回共通)

日時:2017年9月、10月、11月、12月(開催日調整中)
18:00~20:00 (開場 17:30)



会場：メキシコ大使館別館5階「エスパシオ・メヒカーノ」/参加費：無料
主催：メキシコ・日本アミーゴ会 / 協力：メキシコ大使館

申込方法：開催日が確定次第、アミーゴ会メルマガにてお知らせします。お見逃しなきように。(以上)

お知らせ

9月16日(土)17日(日)18日(祝) お台場はメキシコ!!

Fiesta Mexicana 2017@お台場

メキシコ独立記念日の9月16日から18日まで、第18回フィエスタ・メヒカーナがお台場ウエストプロムナードで開催されます。お出かけください。

今年は「メキシコ料理フェア」が隣接ホテル・グランドニッコー東京 台場の1F レストランで展開予定。期間は9月1日~10月20日。また、フィエスタ期間中のディナータイムのみ、お馴染み“マリアッチ・アガベ”の本場の生演奏も楽しめます。

恒例の **MEXICO 写真コンテスト** では現在、8月28日(月)必着でご自慢の作品を募集中です。応募要領などは下記の URL にてご確認ください。

URL:<https://www.fiestamexicana-tokyo.com/>

BLOG : <http://mexicana.jugem.jp/>

メキシコ・日本アミーゴ会はフィエスタ・メヒカーナに協賛し実行委員会に参加しています。(以上)

¡VIVA MEXICO! ¡VIVA MEXICO!

VAMOS A MEXICO!
Fiesta Mexicana 18th 2017 in お台場Tokyo
9.16(土)17日(日)18日(祝) 3日間お台場はメキシコ!!
お台場ウエストプロムナード

入場無料
大抽選会 18日 祝 16:00~

主催：フィエスタ・メヒカーナ 2017 実行委員会 日本ラテンアメリカ文化交流協会
共催：(一社)東京経済新聞社 東京お台場地区振興会
後援：メキシコ合衆国大使 EMBAJADA DE MEXICO メキシコ外務省 SAGARPA PROMEXICO メキシコ観光局
協賛：アエロメヒコ航空 国務省 郵政省 国際文化交流委員会 メキシコ・日本アミーゴ会 レッドアソシエーション 広島県
協力：日墨交流会 「セラメキシコ観光」 SALSABLANCA オーストラリア・メキシコ・コンサルタンツ
Grupo Hispano de Nariño Red Global MX Capital Japan Nichibokubus México En La Piel りんがい
神田外国大・早稲田大・明治大・立教大・千原商科大ポランテアグループ el jalapeño メビウス 他を予定

お問合せ：フィエスタ・メヒカーナ実行委員会事務局 日本ラテンアメリカ文化交流協会内 TEL:0422-59-0833
FAX:0422-59-0834 E-mail:mexicana@hola-amigos.co.jp http://www.fiestamexicana-tokyo.com/

*案内チラシのダウンロードは下記の URL でできます。
<http://docs.mex-jpn-amigo.org/FiestaMexicana2017.pdf>

2018年大統領選挙：ポピュリスト政権の誕生も

アミーゴ会 幹事（編集人） 河嶋正之

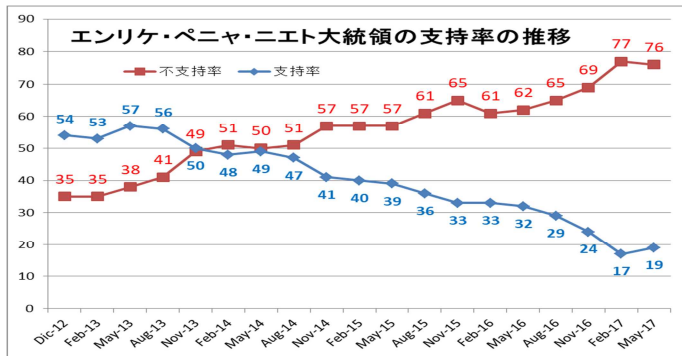
メキシコでは2018年7月1日に大統領選挙と国会議員選挙が予定されている。エンリケ・ペニャ・ニエト大統領（PRI：制度的革命党）の人気低迷が続くなか、各党の大統領候補者選びが次第に白熱化してきている。メキシコ特有の1年余に及ぶ「政治の季節」の到来をまえに、本稿では最近の世論調査結果を踏まえて、ペニャ・ニエト大統領の支持率の動向および各党の有力大統領候補者の支持率の現状を報告したい。

現職大統領の低い支持率

ペニャ・ニエト大統領は2012年12月の就任以来、憲法改正を必要とする構造改革（教育改革・通信市場改革・エネルギー改革）を進め、メキシコが抱える中長期的課題の解決に向けて順調に滑り出した。

しかし、14年に入ると支持率は下降を始めた（下図）。9月に発生した教員養成大学の学生集団失踪事件（イグアラ事件）をきっかけに、麻薬犯罪組織と結託した地方の行政・警察の深刻な腐敗が明らかになり、連邦政府の後手に回る市民生活の安全確保対策が厳しく批判された。加えて米国大統領選挙でのトランプ候補の国境の壁建設を始めとするメキシコおよびメキシコ人への相次ぐ侮辱発言、さらにはペニャ・ニエト政権が16年8月に仕掛けたトランプ候補のメキシコ招聘会談の不首尾がさらなる支持率低下に拍車をかけた。

また、17年年初からのガソリン販売価格の自由化（補助金廃止による価格上昇：gazolinazo）を背景にインフレが昂進し、5月には前年同月比6.2%と09年4月来の高い上昇率となり、国民の日常生活を強く圧



迫するようになってきた。

出所：CONSULTA MITOFSKY—El Economista 紙 2017年5月21日付

こうしてペニャ・ニエト政権の支持率は17年2月調査で任期中最低の17%に低下し、不支持率は同最高の77%に上昇した。5月調査では支持率が19%、不支持率が76%と若干改善したが、メディア報道が6月4日のメキシコ州知事選の帰趨一色となった反映という。

政権発足後18四半期目での直近5人の大統領の不支持率は、ペニャ・ニエト大統領（PRI）の76%が図抜けて高く、カルデロン大統領（PAN：国民行動党）が49%、フォックス大統領（PAN）が44%、セディージョ大統領（PRI）が24%、サリナス大統領（PRI）が14%だった。このうち政権政党が交代したセディージョ大統領（PRI→PAN）とカルデロン大統領（PAN→PRI）の不支持率は共に支持率と近接していた。もし現職のペニャ・ニエト大統領の支持率がかかる低率のまま推移すれば、歴史は繰り返して、次期大統領選挙でPRIが再び敗退する可能性が高いといえる。

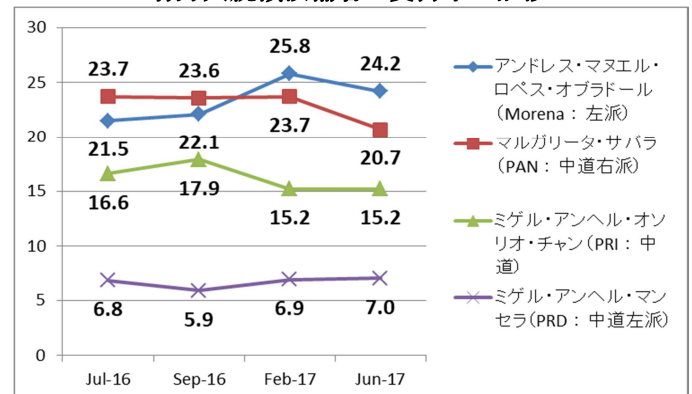
ポピュリスト系左派候補が高支持

2018年の大統領選挙に向けた各党候補者は現時点では未定だが、年末にかけて党内予備選が行われて統一候補者が選ばれる。他方で16年年央からメディアや世論調査機関は、立候補が予想される各党有力政治家の支持率調査を行っている。かかる調査で16年後半から急速に支持を伸ばしているのが、左派の国家再生運動（Morena）を率いるアンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール（通称：AMLO）党首（63歳）だ。同氏は06年大統領選に中道左派の民主革命党（PRD）から立候補したがカルデロン候補（PAN：中道右派）に僅差で敗れ、12年の大統領選でも左派連合から立候補してペニャ・ニエト候補（PRI：中道）に敗れた。

AMLO氏は2000～05年にメキシコ市長（民選）を務めた実績を有する左派の有力政治家で、ポピュリズム的政策で都市貧困層の支持を集める。ただし、06年の大統領選敗退時に、投開票に不正ありとしてレフォルマ大通りを48日間実力封鎖して、市民生活や経済活動に影響を与えた。このため産業界には、同氏への支持率の高まりを警戒する声も根強い。

次期大統領選挙で想定される三大伝統政党の有力候補者とAMLO氏との間での支持率調査（誰に投票するか）では、17年6月の最新調査（下図）でもAMLO氏が24.2%とトップを走る。第2位はカルデロン前大統領夫人のマルガリータ・サバラ氏（PAN、49歳）の20.7%、第3位は与党PRIのミゲル・アンヘル・オソリオ・チョン内相（52歳）の15.2%、第4位は現メキシコ市長のミゲル・アンヘル・マンセラ氏（PRD、51歳）の7.0%で、AMLO氏がなお高い支持を得ている。

有力大統領候補者の支持率の推移



出所：CONSULTA MITOFSKY—El Economista 紙 2017年6月22日付

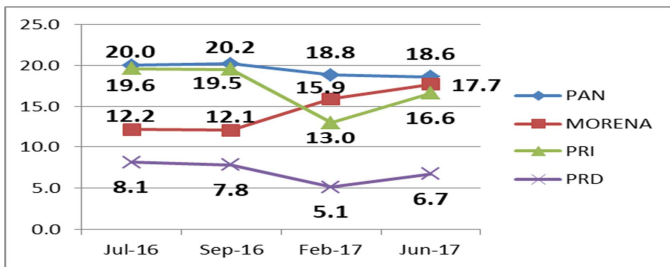
しかし、AMLO氏は不支持率では29.0%とPRIのオソリオ・チョン氏の30.8%に次ぐ第2位の「嫌われ者」だ。第3位はPRDのマンセラ氏で23.3%、第4位はPANのサバラ氏の22.0%と続く。このためAMLO氏の快進撃は続かないとの見方もある。

主要政党別の好感度・嫌悪度

主要政党別の「好感度(支持)」調査(2017年6月)では、PANが依然トップを走るが、MorenaとPRIが激しく追いついて三つ巴戦の様相を呈している。他方、「嫌悪度(不支持)」調査では4党ともに「嫌い」との回答がじわりと増えている(下図)。なお、本件調査は各党候補者を特定せず、また政党間の選挙協力体制を考慮しない回答結果である。

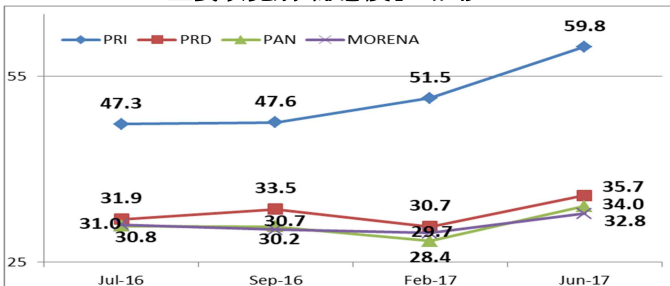
また2017年6月4日のメキシコ州知事選挙ではPRI候補がMorena候補に僅差で勝利した。有権者数最大のメキシコ州は元来PRIの牙城であり、この結果はPRIの支持基盤が揺らいでいることを示唆している。

主要政党別「好感度」の推移



出所: CONSULTA MITOFSKY-El Economista 紙 2017年6月20日付

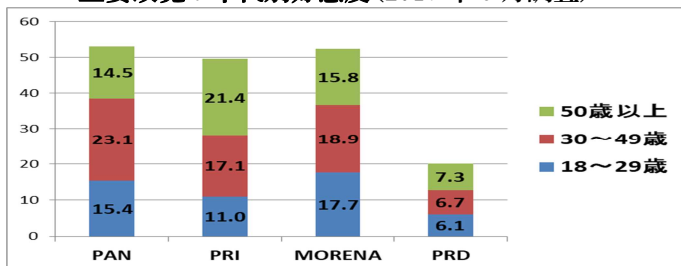
主要政党別「嫌悪度」の推移



出所: CONSULTA MITOFSKY-El Economista 紙 2017年6月20日付

年代別の政党好感度をみると、29歳以下の青年層ではMorenaが、49歳以下の成年層ではPANが、50歳以上ではPRIが第一位を占めており、世代別支持は概ね分散している(下図)。また、地域別では中部と南部ではMorenaが、西部ではPANが、北部ではPRIが多く支持を集めている。性別では男性がPANとMorenaを、女性がPRIを支持している。

主要政党の年代別好感度(2017年6月調査)



出所: CONSULTA MITOFSKY-El Economista 紙 2017年6月20日付

近づく政治の季節: 反米感情の行方

AMLO氏の支持率が高まっている背景には、エネルギー改革反対の立場を貫いて国民のPRI政権に対する批判を追い風にしていること、さらにはトランプ大統領の国境の壁建設計画やメキシコ系移民に対する相次ぐ侮蔑発言がメキシコ人の「寝たふり」をしていた!>反米感情を呼び覚ましていることがある。

AMLO氏は、メキシコ国内や在米メキシコ系移民の反米・反トランプ感情の高まりと将来不安の増大を見抜き、2月には米国主要都市を歴訪して「メキシコ政

府はメキシコの尊厳を守るべく米国政府に対して毅然とした態度で交渉すべし」と在米同胞に訴えた。

2015年現在、米国にはメキシコ系移民が1,220万人いるという。このうちメキシコ本国の大統領選挙などで投票できる人々は、メキシコ連邦選挙庁(INE)が求める有権者登録などを終えたメキシコ人だけだ。2018年大統領選挙での在外有権者数は約100万人と見込まれ(INE)、全有権者数8,600万人の1.2%に相当する。例えば2006年大統領選挙では、AMLO候補がカルデロン候補に24万3,934票(0.58%)の僅差で敗れており、在米メキシコ人の支持票獲得も重要な選挙戦略である。

これから大統領選挙戦が本格化するにつれて、AMLO氏のみならず野党候補もPRI政権への攻撃を強め、同時に米国政権との「政治対決」を争点化するだろう。トランプ大統領のメキシコ攻撃の反射効果としてのAMLO氏の人気上昇という、政治現象の継続も想定される。メキシコと米国との全般的な関係悪化への懸念が再び浮上し、投票が終わる来年7月まで、投資家としての民間企業をも様子見に追いやってしまうリスクが残されている。<了>

お知らせ

秋季アミーゴ会懇親ゴルフ大会

恒例のアミーゴ会懇親ゴルフ大会を下記要領で開催します。多数のゴルファーの参加をお待ちしております。なお、詳細はお申込み頂いた方々に別途メールにて後日ご案内しますのでご了承ください。

日時: 2017年9月4日(月)

場所: 湘南カントリークラブ (shonan-cc.co.jp/)

費用: 約2万円

(キャディー付き、景品代、パーティー代込み)

締切: 8月10日(木)

(注)締切日以前に定員24名に達した場合はその時点で締め切ります。

申込先: 鴻巣 勝明 katsuaki4989@yahoo.co.jp

南郷 茂伸 mochi641n@yahoo.co.jp

*アミーゴ会メルマガ2017年7月7日付で案内済み。

私の本棚

『縁側ネコ一家 ありのまま』

渡部 久(日本ウパルパ協会代表)会員の著書。2017年5月刊。定価1,400円+税。四六判164ページ。(株)さくら舎発行。「縁側ネコ一家」は食や住で人間に依存しながら人と共生関係にあるネコ一家。住みかには縁側と庭と畑。強い縄張り意識をもち、夜の畑に侵入して農作物を食べ尽くすシカ、イノシシ、サルなど野生動物たちを撃退。昼間となれば縁側で熟睡。縁側ネコたちの春・夏・秋・冬を150点超の写真を交えて紹介(帯より抜粋)。ネコ好きもイヌ好きも是非お手元に!

あとがき: 本誌4月号に「メキシコ報告」をご寄稿頂いた山田彰メキシコ大使がブラジル大使にご栄転です。新任地でのますますのご活躍をお祈りします。今号は諸般の事情から編集人が2本の記事を書き上げたため発行が遅れました。会員の皆さまからの多数のご投稿をお待ちします。恒例のメキシコ歴史文化講演会「日系移民」全4回の事業が固まりました。知的ワクワク刺激をご期待ください。【20170712か】